

ホメオパシー 自然生活

Part2



豊登自然農の畑で、大家の収穫のどらこ先生

前回大好評につき、ホメオパシー自然生活パート2を企画しました。ホメオパシーの第一人者の由井寅子さん（通称、どらこ先生）、実はホメオパス、農民以外にインナーチャイルド癒しの先駆者としての顔もあります。悲しみ、恐れ、怒り、恨み、罪悪感、嫉妬……「どんな感情もありがたい！」と言い切るとらこ先生。そんなユニークな発想のどらこ先生にインナーチャイルド癒しの極意をインタビューしてきました。子どもを叩いてしまう、夫や同僚とうまくいかないなど、感情に翻弄され生きるのが辛く苦しいと感じている皆さん、必見ですよ!!

Q スバリ、インナーチャイルド（以下インチャ）とはなんですか？

A スバリ、インチャの正体は、「抑圧された感情」のことです。過去に感情を抑圧したことがあるから、それが未解決なものとして残り、同じような状況でその感情が出てくるのです。

たとえば、子どもが言うことを聞かないと叩いて黙らせようとしてしまいます。わがままな子どもにも腹を立てているのは今の自分だと思ってもいいかもしれませんが、本当に怒っているのは、怒りを抑圧した昔の自分、たとえば、わがままな弟に腹が立っていたけれど怒ることができなかった子ども頃の自分だったりするのです。

だから感情が生じたとき、過去に同じような状況で感情を抑圧したことはなかったかを考えるのです。抑圧した感情（インチャ）は自然消滅することはない、後に感情的に振り回される原因となります。でも今のは未解決な問題がありますよと教えてくれるだけなのです。

Q そもそも感情はどうして生じるのですか？

A 「わがままを言うてはならない」など、「こうあるべき」と

いう価値観にとられることで感情が生じます。その価値観を緩めることができたら出来事に振り回されることも感情が生じることもなく平安でいられるのです。

しかし「価値観を緩める前にインチャを見つけて癒してあげる必要があります。感情は、「インチャの私はここにいる」「私を見つけて！」という叫びなのだと思います。だから感情が生じたとき、自分に問にかけてほしいのです。自分はなぜ腹が立つのか、自分はなぜ悲しんでいるのか？を、そうして過去の感情を抑圧したインチャを見つけたならば、その子の気持ちに寄り添い共感して言葉をかけてやってほしいのです。

「あのときは本当に怒りたかったよね。よく我慢して偉かったね。でも今は我慢しなくていいから、弟に言いたいことを言ってみよう。叩きたかったら叩いていいよ」と言ってみよう。イメージの中で抑圧した怒りを表現させてあげることが大事なのです。

十分怒りを表現させた後に、「どうしてそんなに弟に腹が立つの？」と聞きます。そうすると「だって弟はいつもわがまま言っているのに、私はおねえちゃんだからと我慢ばかりさせられて……甘えたくてもお母

information

どらこ先生ライブ講演

7月13日(日) これから起る災害や危機への対策-ホメオパシーからの実践-、そして、8月16日(土) 性別の夏(の幸に生きるための奥義-よりよく生きるために-) どちらも東京ライブ講演、札幌、名古屋、大阪、福岡を生中継で結んでの同時ライブ講演、お問い合わせ申し込みはこちら <http://www.homeopathy.ac>



プロフィール

由井寅子

日本ホメオパシー医学協会会長/カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー学員/農業生産法人日本農産自然農株式会社代表・百穂 ホメオパシーの実践とホメオパシーの創始者ハーネマンの研究に世界的に評価され、アムステルダム、自問症など難病にも対応可能【224】雑誌のホメオパシーを牽引する権威的なホメオパスとして、国内外から遠征が期待されている。著書、論文、訳書多数。